

分科会テーマとポイント

○ 第1分科会 「健康長寿に取り組む」

健康づくり・介護予防活動」

今後、平均寿命の延伸とともに、健康な期間だけでなく、不健康な期間も伸びることが予想されます。疾病予防と健康増進、介護予防などによって、平均寿命の伸び以上に健康寿命を延ばすことは、個人の生活の質の低下を防ぐとともに、社会保障負担の軽減も期待できます。

この分科会では、老人クラブが行う「健康ウォーキング」や「体力測定会」などの健康活動が、地域の高齢者の健康長寿に果たす役割について考えます。

- 健康づくり推進員を活用した取り組み
- 健康ウォーキングなどの健康づくり活動の取り組み
- 健康管理や生活習慣などの健康学習の取り組み
- 介護予防に向けた取り組み

○ 第2分科会 「地域包括ケアシステムの構築に向けた

友愛活動の充実」

介護保険制度の改正により、要支援者への介護サービスの一部が保険給付から市町村による新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）として進められています。

一方、老人クラブでは友愛活動等高齢者の在宅での生活を支援する活動を進めてきましたが、これが新しい多様なサービスの担い手として期待されています。

この分科会では、今後、友愛活動による様々な取り組みが、新地域支援事業への参画、地域包括ケアシステムの構築に向けて、どのように関わっていけるのか考えます。

- 友愛活動が新地域支援事業に結びついた取り組み
- 新地域支援事業参画に向けた取り組み
- 安否確認を目的とした訪問活動の現状と課題

○ 第3分科会 「多世代や地域団体との 交流による地域づくり」

国では、高齢者・障がい者・子どもなどすべての人々が、一人ひとりの暮らしと生きがいをともに創り、高め合う社会（「地域共生社会」）の実現を目指しています。この実現に向けて、地域では「住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり」が求められており、老人クラブは地域の社会資源（支え手）のひとつに位置づけられています。

老人クラブでは、従来から子どもをはじめとする多くの世代や自治会などの地域団体と交流・連携しながら、様々な地域活動に取り組んできました。

この分科会では、今後老人クラブが地域の一員として、ともに「地域共生社会」の実現に向けて、これらの活動をいかに推進していくのか考えます。

- 自治会や町内会など地域団体と連携した取り組み
- 子どもをはじめとする他の世代との交流を図る取り組み
- 地域活動を通じて得られた効果

○ 第4分科会 「会員加入促進に向けた老人クラブづくり」

総務省の発表では、平成29（2017）年、我が国における65歳以上の高齢者数は3,515万人で、高齢化率は27.7%と過去最高を記録しました。一方、老人クラブは平成10年をピークにクラブ数・会員数が減少に転じ、年々減少傾向にあります。

今、会員増強が全国の老人クラブ共通の課題であり、平成26年度から「100万人会員増強運動」に様々な形で取り組んできましたが、全体的には有効な歯止めに結びついていないのが現状です。

この分科会では、成功事例に学びながら新たな会員の加入に繋がるような魅力ある老人クラブについて考えます。

- 魅力が感じられるクラブへの取り組み
- 加入促進に効果のあった取り組み
- 有効なクラブのPR（情報発信）の方法
- 解散クラブ防止に向けた取り組み